

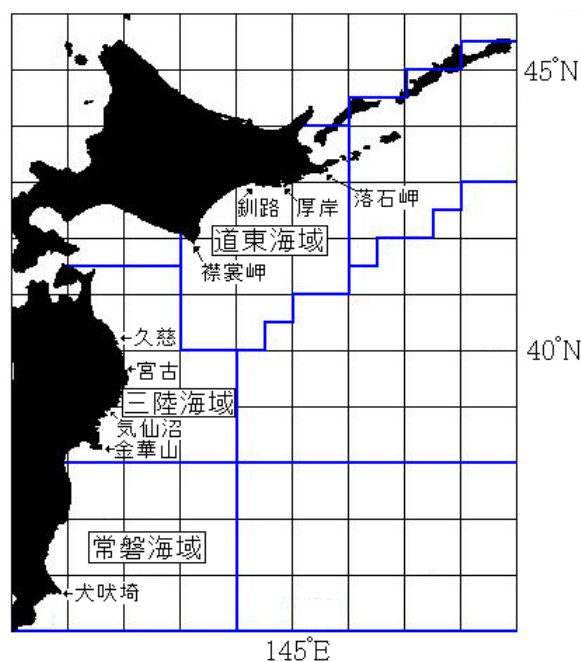
## 平成26年度 第7回 北西太平洋サンマ中短期漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し一般社団法人漁業情報サービスセンターがとりまとめた結果 －

### 今後の見通し(2014年11月中旬～12月下旬)のポイント

#### 来遊量

- ・道東海域は終漁。
- ・三陸海域では、11月中旬は減少して中位水準となる。
- ・常磐海域では、11月中旬は中位水準で増加する。



海域の名称

### 問い合わせ先

一般社団法人漁業情報サービスセンター 事業二課

担当：渡邊、松尾

電話：03-5547-6889、ファックス：03-5547-6881

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.jafic.or.jp/gyokaikyo/>

独立行政法人水産総合研究センター

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

# 平成26年度 第7回 北西太平洋サンマ中短期漁況予報

## 1. 今後の見通し

予測期間：2014年11月中旬から12月下旬までの旬別

対象海域：道東海域、三陸海域、常磐海域

対象漁業：さんま棒受網漁業

対象魚群：南下回遊群

### 1) 道東海域

#### (1) 来遊量

来遊量は少なく、終漁となる。

#### (2) 漁場

漁場は形成されない。

### 2) 三陸海域

#### (1) 来遊量

来遊量は減少し、11月中旬は中位水準、11月下旬は低位水準となる。12月上旬は断続的となり、終漁となる。

#### (2) 漁場

11月中旬～12月上旬は三陸南部が漁場となる。

### 3) 常磐海域



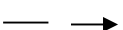

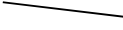



#### (1) 来遊量

来遊量は徐々に増加し、11月中旬は中位水準となる。11月下旬から来遊量は減少し、12月上旬～中旬は低位水準となる。12月下旬は断続的となる。

#### (2) 漁場

11月中旬は常磐北部に漁場が形成されるが、11月下旬は常磐南部まで漁場が広がる。12月上旬～下旬は、常磐南部に漁場が残る。

## 2. 予測の概要

海 域		11月中旬	11月下旬	12月上旬	12月中旬	12月下旬
道東海域	来遊量					
	動向					
	漁 場					
三陸海域	来遊量					
	動向	中位減少	低位減少	断続的		
	漁 場	南部	南部	南部		
常磐海域	来遊量					
	動向	中位増加	中位減少	低位減少	低位減少	断続的
	漁 場	北部	北部～南部	北部～南部	南部	南部

### 3. 漁況の経過概要（10月下旬）

#### 1) 道東海域

##### (1) 来遊量

資源量指数から判断した道東海域における来遊量の水準は、前旬を下回り、前年並の低位水準であった。日別CPUE（1網当たりの漁獲量）から判断すると、来遊量は減少したが、期後半にやや増加した。

##### (2) 漁場

道東海域では、釧路沖と襟裳岬沖に漁場が形成された。釧路南～南西沖の30～40海里付近（13℃）では、22～24日夜に小型船が多数操業し、満船となる船もあったが、24日夜は船間差が大きくなった。襟裳岬南100～120海里付近（15～16℃）では、30日夜以降、大型船数隻～20隻程度と小型船数隻が操業した。大型船で最高130トン、平均108トン漁獲した。

##### (3) 魚体

釧路沖は体長27cmモードとの中型魚主体、襟裳岬沖は体長30～31cmモードの大型魚主体であった。

#### 2) 三陸海域

##### (1) 来遊量

資源量指数から判断した三陸海域における来遊量の水準は、前年および前旬を上回り、高位水準であった。日別CPUE（1網当たりの漁獲量）から判断すると、来遊量は期半ばにかけて増加し、その後やや減少した。

##### (2) 漁場

三陸海域では、八戸沖～金華山沖に漁場が形成された。八戸東30～60海里～宮古北東30～50海里付近（13～14℃）では、連日大型船が数隻～35隻程度と小型船が操業した。大型船で最高130トン、平均88トン漁獲した。宮古東30海里～釜石東30海里付近（13～14℃）では、28～31日夜に大型船数隻と小型船が操業し、大型船で最高40トン、平均39トン漁獲した。金華山東25海里付近（16℃）では、21日夜に大型船が1隻操業し、20トン漁獲した。

##### (3) 魚体

体長30～31cmモードの大型魚主体であり、中型以下の魚が1～3割程度混じった。大型魚の体重は130～150g台主体であった。

#### 3) 常磐海域

##### (1) 来遊量

資源量指数から判断した常磐海域における来遊量の水準は、前年および前旬並の低位水準であった。日別CPUE（1網当たりの漁獲量）から判断すると、期半ばに来遊量は増加した。

##### (2) 漁場

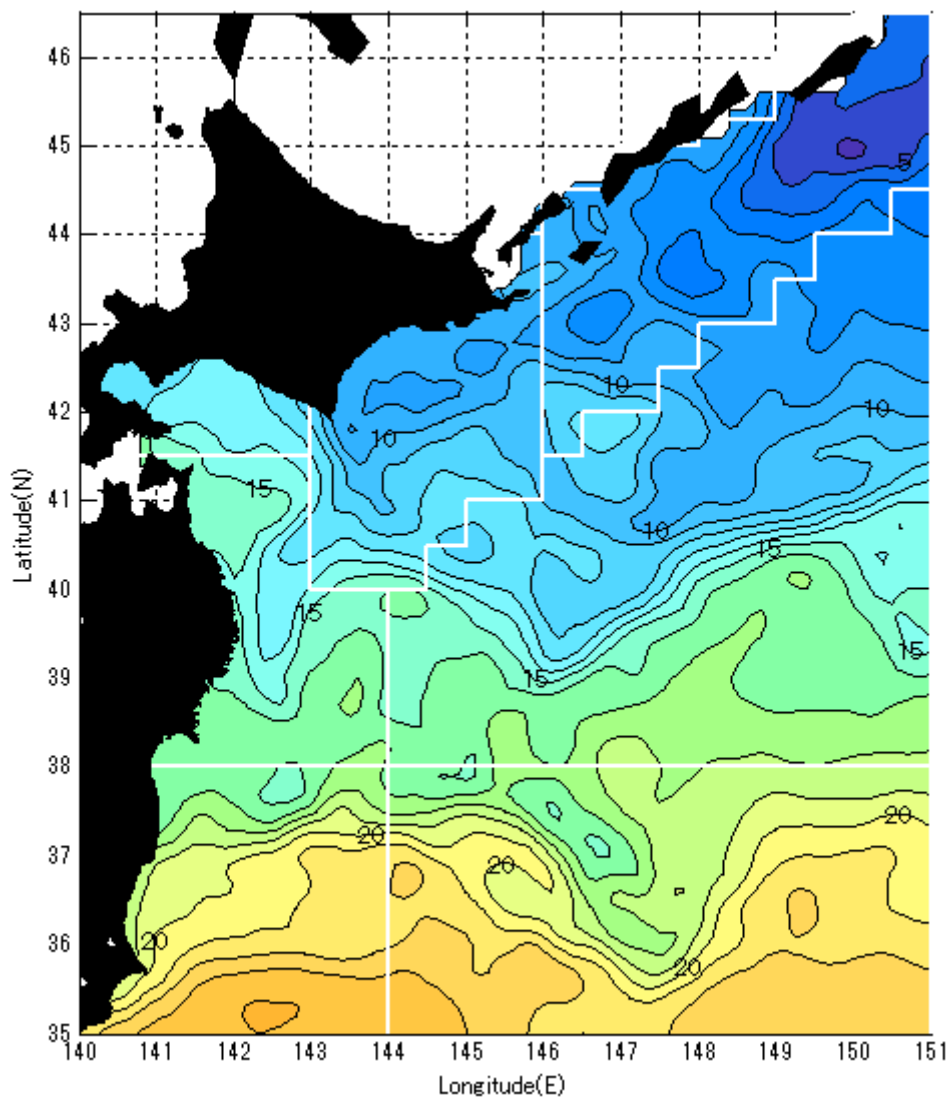
常磐海域では、金華山南沖に漁場が形成された。金華山南南東55海里付近（16℃）では、24日夜に大型船が4隻操業し、最高70トン、平均42トン漁獲した。

##### (3) 魚体

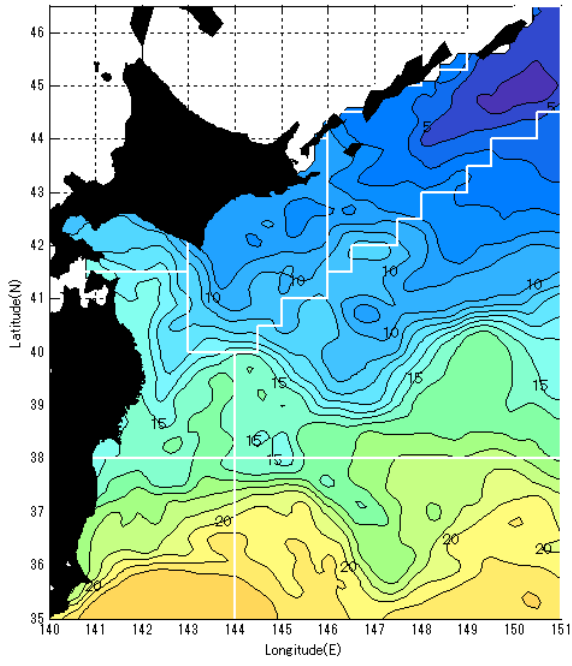
体長30～31cmモードの大型魚主体であった。

#### 4. 予測水温分布図

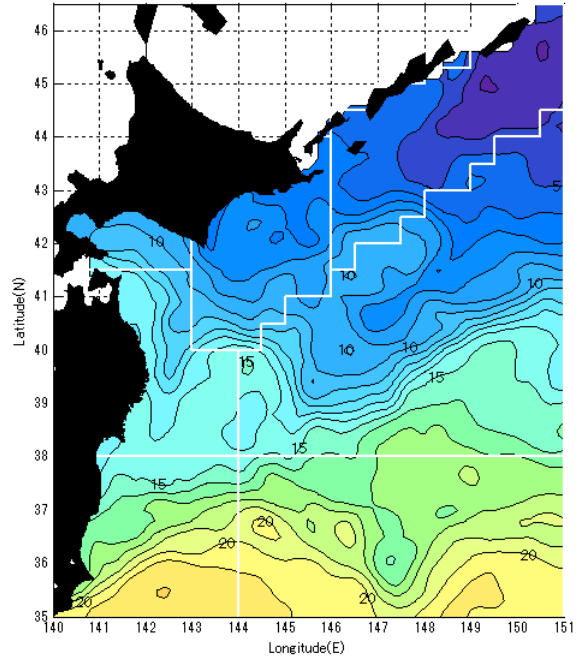
11月中旬予測表面水温分布図



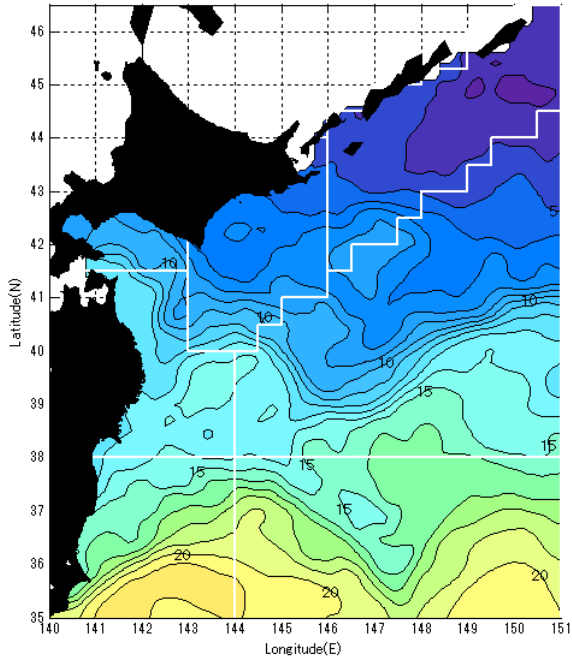
11月下旬予測表面水温分布図



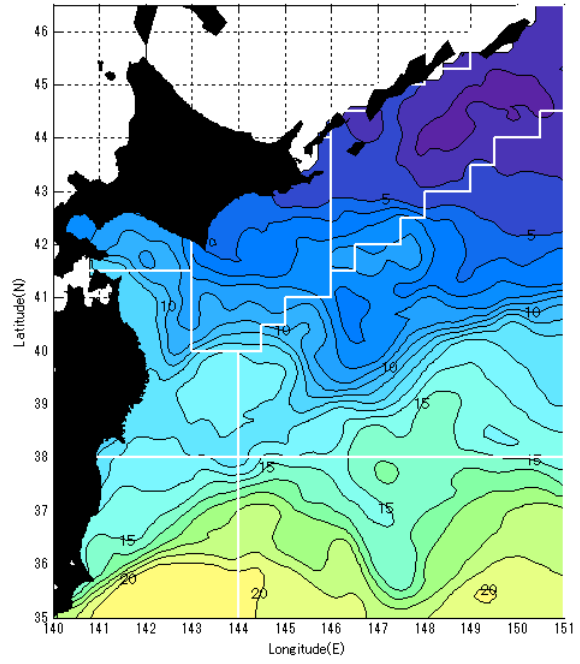
12月上旬予測表面水温分布図



12月中旬予測表面水温分布図



12月下旬予測表面水温分布図



## 参 画 機 関

<p>地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 釧路水産試験場</p> <p>岩手県水産技術センター</p> <p>宮城県水産技術総合センター</p> <p>福島県水産試験場</p>	<p>茨城県水産試験場</p> <p>千葉県水産総合研究センター</p> <p>独立行政法人 水産総合研究センター 東北区水産研究所</p> <p>(取りまとめ機関) 一般社団法人 漁業情報サービスセンター</p>
---	---